

環境経営レポート2025年度版

2025.05.01～2026.04.30

ver.1.0



発行日2026年5月29日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

目次

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. 環境経営目標（2025年度～2027年度）	14
4. 環境経営組織図	4	7. グリーン購入について	15
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境啓発活動	16～17
①- a 電力使用量	6～8	9. 環境関連法規	18
①- b ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	19
①- c CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

1. 会社概要・対象範囲

■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 23名（就業役員を含む）
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所

- 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25
床面積：173.73㎡
- 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
床面積：301.69㎡
- 木場オフィス 東京都江東区東陽1-3-17
床面積：134.13㎡

- ◆環境管理責任者 商品管理部 小田真也

◆事業規模

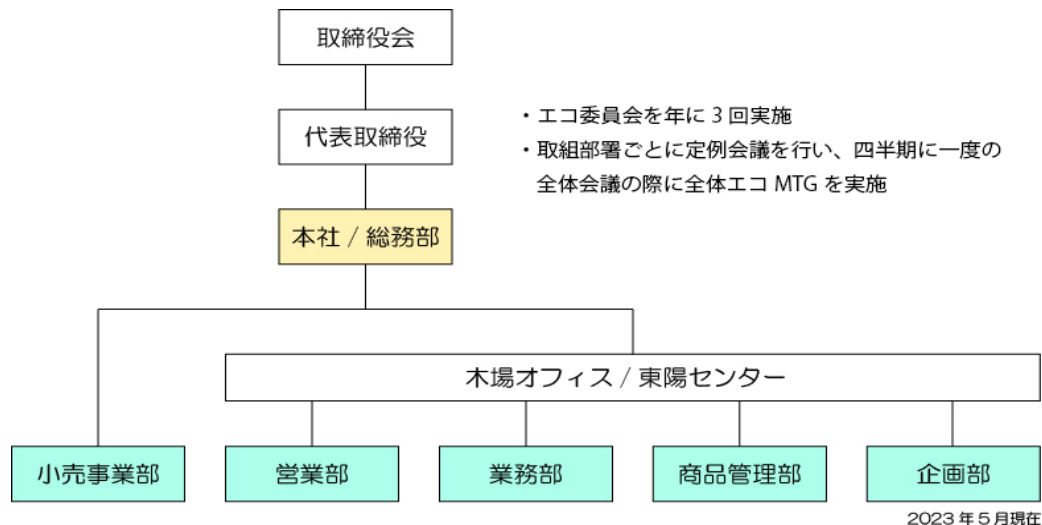
	2023年度	2024年度	2025年度
売上高(万円)	88,000	95,600	93,120

決算期末（7月～翌年6月）売上高

■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

■組織図



- ・エコ委員会を年に3回実施
- ・取組部署ごとに定例会議を行い、四半期に一度の全体会議の際に全体エコ MTG を実施

◆主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり



目標4〔質の高い教育をみんなに〕

- 子どもたちへの教育環境・備品等の支援
(公財オイスカ こどもの森計画)
→P13, 16



目標14〔海の豊かさを守ろう〕

- サンゴ礁保護支援 (WWF 南西諸島の保全活動)
- 海洋プラスチック問題への取組 (東京ベイ・クリーンアップ大作戦) →P13, 16, 17



目標7〔エネルギーをみんなにそしてクリーンに〕

- クリーンエネルギー (太陽光発電) の利用
- 化石燃料に頼ったエネルギー使用を削減する
- 全熱交換機の導入 →P6, 7, 8, 9



目標15〔陸の豊かさを守ろう〕

- グリーン購入法適合品の積極的利用
- 希少動物保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 地球の緑化活動支援 (公財オイスカ こどもの森計画)
→P13, 15, 16, 17



目標12〔つくる責任つかう責任〕

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する
→P12, 13



目標17〔パートナーシップで目標を達成しよう〕

- 公財オイスカ、WWFジャパンほかとのパートナーシップ
→P16, 17



目標13〔気候変動に具体的な対策を〕

- 地球温暖化対策としてCo2削減の取り組み
→P6, 7, 8, 9, 10



3. 環境経営方針

株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『サステナビリティ』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
 - a. 環境対応商品を2030年までに総数2,000アイテム以上に増やします。
 - b. 流通過程においては、エネルギーの無駄使いを徹底的に排除するとともに、廃棄物の削減と排出抑制を図ります。
 - c. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
 - d. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

改訂3： 2025年5月1日

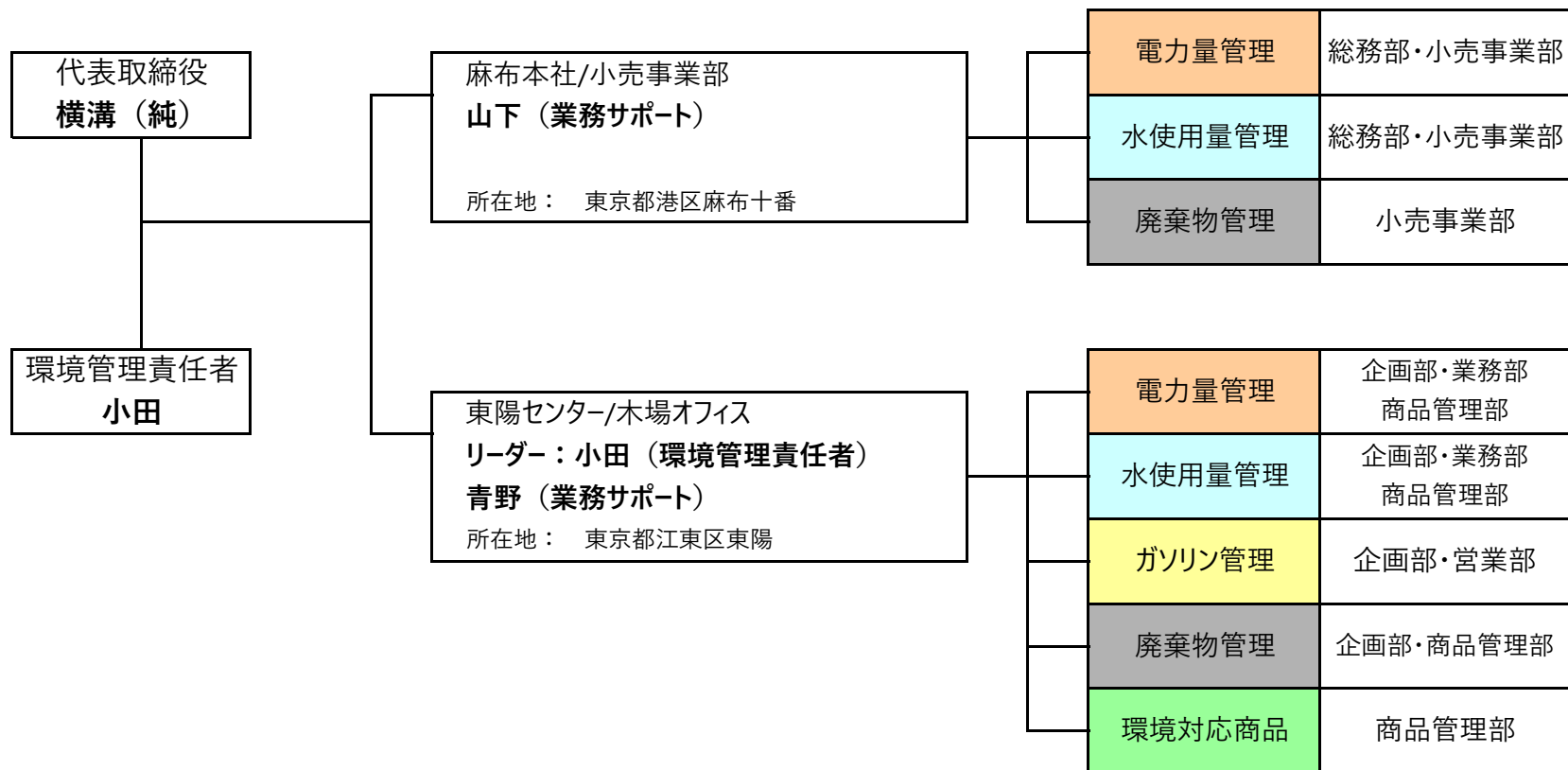
制定： 2006年11月01日

株式会社 長門屋商店
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図

〔役割・責任・権限〕

代表取締役	環境経営方針の策定、環境管理責任者の指名、必要な資源を準備、目標値と実行計画の作成・是正指示、課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	環境経営システムの維持、環境経営レポートの作成、各部署の運用状況の把握、定期ミーティングの開催
各部署担当	月次の数値の記録、定期ミーティングにおいて運用状況の報告



5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2024年度実績	2025年度実績	2025年度目標	目標達成率
①- a 電力使用量	44,386kWh	45,596kWh 前年対比 +2.7%	44,208kWh (対2024年度-0.4%)	目標対比 +97.0% ×
①- b ガソリン使用量	3,856リットル	3,696リットル 前年対比 -4.2%	3,848リットル (対2024年度-0.2%)	目標対比 +104.1% ◎
①- c CO2 排出量※	25,063kg-CO2	27,338kg-CO2 前年対比 +9.1%	24,843kg-CO2 (対2024年度-0.8%)	目標対比 +90.9% ×
② 水使用量	173m3	154m3 前年対比 -11.0%	172m3 (対2024年度-0.5%)	目標対比 +111.7% ◎
③- a 廃棄物(事業系一般廃棄物)の排出量 可燃ごみ (熱回収)	614.0kg	619.7kg 前年対比 +0.9%	600.0kg (対2024年度-2.2%)	目標対比 +96.8% ×
③- b 廃棄物(リサイクル資源)の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	4478.8kg	4126.2kg 前年対比 -7.9%	4333.0kg (対2024年度-3.2%)	目標対比 +105.0% ◎
④ 環境対応商品の売上高 ※エコ商品ねっとに掲載の商品が対象	32,310万円	34,740万円 前年対比 +7.5%	32,730万円 (対2024年度1.2%)	目標対比 +106.1% ◎

1)CO2排出量使用排出係数について、購入電力は0.000421（東京電力エナジーパートナー）または0.000571（楽天モバイル）〔単位：t-CO2/kWh〕、ガソリンは2.32〔単位：kg-CO2/l〕を使用

2)◎は年度設定目標と昨対共に達成 ○は年度設定目標に及ばずも前年実績はクリア △は年度設定目標に及ばずも前年実績100%未満95%以上
×は目標、前年実績ともクリアできず

3)環境経営目標達成率が90%を下回る場合、また環境関連法規および法令の遵守が認められない場合に、是正・予防処置ならびに報告をするものとする

4)産業廃棄物の排出量はゼロ

環境経営目標実施要項①- a 電力使用量（その1 /実績一覧）

SDGs 該当項目 ⇒



本社ビル	2023年度	2024年度	2025年度
購入電力量(1)	24,812kWh	17,238kWh	17,792kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	3,100kWh	3,567kWh	2,448kWh
実質電力使用量 (1)+(2)	27,912kWh	20,805kWh	20,240kWh
前年比		74.54%	97.29%

東陽センター	2023年度	2024年度	2025年度
購入電力量(1)	9,748kWh	10,141kWh	11,850kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	5,923kWh	5,193kWh	5,612kWh
実質電力使用量 (1)+(2)	15,671kWh	15,334kWh	17,462kWh
前年比		97.85%	113.87%

木場オフィス	2023年度	2024年度	2025年度
購入電力量(1)	7,192kWh	8,247kWh	7,894kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)			
実質電力使用量 (1)+(2)	7,192kWh	8,247kWh	7,894kWh
前年比		114.67%	95.72%

全社合計	2023年度	2024年度	2025年度
購入電力量(1)	41,752kWh	35,626kWh	37,536kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	9,023kWh	8,760kWh	8,060kWh
実質電力使用量 (1)+(2)	50,775kWh	44,386kWh	45,596kWh
前年比		87.42%	102.73%

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

前年対比 +2.73%

環境経営目標実施要項①- a 電力使用量（その2 /取組内容）

SDGs 該当項目 ⇒



↑ LED電球およびLED蛍光灯

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 温度計を使用して室温管理
- エアコン稼働の目安表示
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF

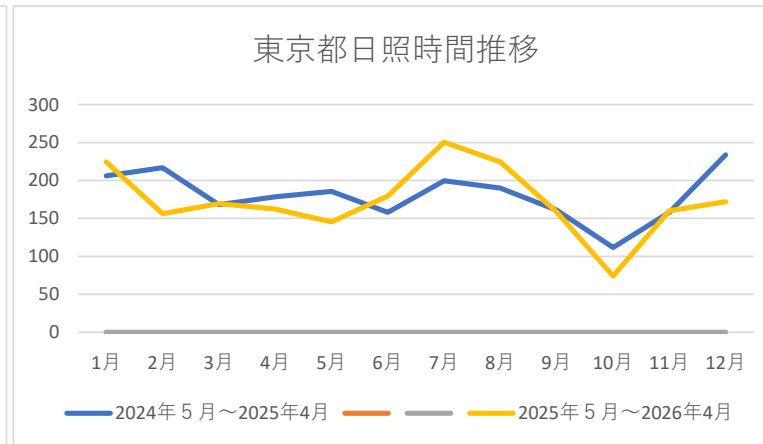
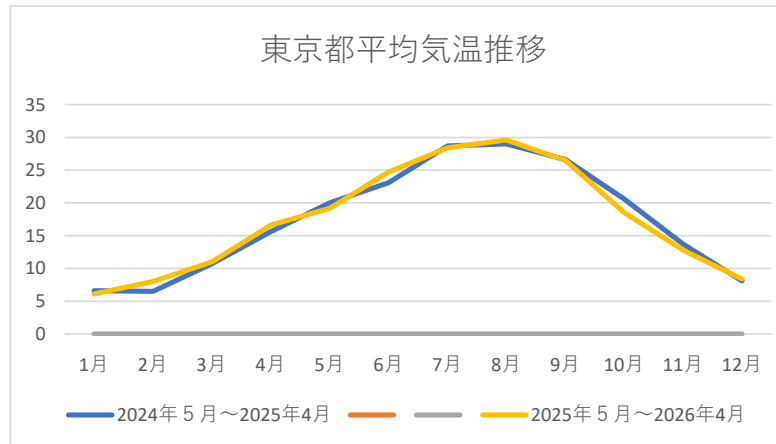


←温度管理へのさまざまな工夫



緑のカーテンやブラインドの設営→

■参考資料（年度別平均気温の推移と日照時間の推移）



※気象庁の観測データより算出

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その3/評価・次年度へ） SDGs 該当項目⇒



2018/5導入 新型LED照明(全9台)



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン



2023年5月導入 掃除機能付きエアコンと全熱換気設備

■今年度の評価

〔本社ビル〕年間の実質電力消費量は20,240kWhとなり、当年度目標に対して達成率は96.1%に留まりました。前年実績（19,525kWh）と比較しても3.7%の増加傾向にあり、全社的な電力削減意識の再向上が急務になります。

〔東陽センター〕今期は従業員の環境面の向上を重視したため、新しく設置した機器等により電力量が大きく上がってしまいました。特に冬場の倉庫は寒く、終日ヒーターの使用が増加しております。

〔木場オフィス〕全体的に電気量は減少ではありましたが、3月・4月などは窓の開け閉め・ドア調節・服装などで今以上に減らせる努力をすればよかったと思われます。また休憩時や外へ出た場合には、パソコン画面のオン・オフを徹底する等、少しずつでも削減へやるべき改善方法はまだあると思われます。

■次年度へ

冬場（1月～3月）の暖房消費増が年間目標未達の決定的な要因となりました。特に、太陽光発電による補填が効かない冬期の「消費の最大化」というリスクが顕在化した形であります。次年度は、単なる「節電」の呼びかけに留まらず、月ごとの発電量予測と連動させた消費目標の策定を働きかけます。特に冬期の暖房効率化を最優先課題とし、サーキュレーターの使用など、設備特性と季節変動を考慮した合理的なエコ活動を展開します。

環境経営目標実施要項①- b ガソリン使用量

SDGs 該当項目⇒



出発前の車両



低燃費運転の心がけを車両内に表示



発送前商品

⇒ 運送会社の発送を積極的に活用

	2023年度	2024年度	2025年度
ガソリン使用量	3,716L	3,856L	3,696L
前年比	99.34%	103.76%	95.84%

前年対比 -4.2%

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2023年度	2024年度	2025年度
全車合計走行距離	49148km	50949km	50934km
前年比	91.47%	103.66%	99.97%
一台あたり燃費	14.36km/L	13.23km/L	13.78km/L
前年比	126.97%	92.13%	104.16%

■継続取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
 - ① アクセルワーク51%以下 ② アイドリングストップ
 - ③ エアコンは控え目 ④ タイヤの空気圧チェック
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

エコは例年通り意識しています。アクセルの使い分けを重点に置き、エアコン始動を削減しています。そのためガソリン使用量が減り、燃費も向上傾向であります。

また、営業体制の改変が行われ、3月下旬から社用車1台が稼働しておりません。

自社便納品から運送会社へ変更も要因と考えます。

環境経営目標実施要項①- c CO2排出量

SDGs 該当項目⇒



CO2排出係数		2025年度使用数値
購入電力	(本社/木場オフィス)東京電力エナジーパートナー	0.000421 t-CO2/kWh
	(東陽センター) 楽天エナジー	0.000571 t-CO2/kWh
ガソリン	EA21ガイドライン	2.32 kg-CO2/l

※2025年度の購入電力の係数は2026年1月9日環境省・経済産業省公表値の実排出係数に拠ります。

全社合計		2023年度	2024年度	2025年度
本社ビル	排出CO2	11,339kg-CO2	7,033kg-CO2	7,490kg-CO2
購入電力	購入量	24,812kWh	17,238kWh	17,792kWh
東陽センター	排出CO2	4,562kg-CO2	5,010kg-CO2	6,766kg-CO2
購入電力	購入量	9,748kWh	10,141kWh	11,850kWh
木場オフィス	排出CO2	3,287kg-CO2	4,074kg-CO2	4,507kg-CO2
購入電力	購入量	7,192kWh	8,247kWh	7,894kWh
全社ガソリン	排出CO2	8,039kg-CO2	8,946kg-CO2	8,575kg-CO2
使用量	使用量	3,716L	3,856L	3,696L
排出CO2総量		27,227kg-CO2	25,063kg-CO2	27,338kg-CO2
前年比		97.59%	92.05%	109.08%

【参考】

	2023年度	2024年度	2025年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	30.94 kg-CO2/百万円	26.22 kg-CO2/百万円	29.36 kg-CO2/百万円
前年比	86.06%	84.73%	111.98%

オフセット計算	2025年度
本社ビル 総発電量	7,766kWh
東陽センター 総発電量	11,278kWh
発電量合計	19,044kWh

※計測端末の値を引用、購入分より差引

購入電力での排出量

⇒ 9,710kg-CO2 相当



太陽光発電によるオフセット後の排出量 17,628kg-CO2

前年対比 9.08%

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2023年度	2024年度	2025年度
上下水道使用量	44m3	46m3	42m3
前年比	88.00%	104.55%	91.30%

東陽センター	2023年度	2024年度	2025年度
上下水道使用量	74m3	65m3	58m3
前年比	73.27%	87.84%	89.23%

木場オフィス	2023年度	2024年度	2025年度
上下水道使用量	54m3	62m3	54m3
前年比		114.81%	87.10%

全社合計	2023年度	2024年度	2025年度
上下水道使用量	172m3	173m3	154m3
前年比		100.58%	89.02%



■継続取組

- 節水を促すPOPを作成し、目に入る場所へ掲示しています。
- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕第2四半期（9月・11月検針分）において、残暑等に伴う一時的な使用量増加により未達となる期間はあったものの、下半期（第3・第4四半期）で確実にリカバリーを見せ、年間を通じて非常に安定した水準で管理できました。「節水意識・無駄な利用を控える」という基本計画が、従業員一人ひとりの行動として定着している確かな成果と言えます。

〔東陽センター〕今年全般で目標クリア達成 トイレ手洗い以外に水の使用はほとんどなく、水の出しっぱなしの事案もない為、節水意識が高く意識されています。

〔木場オフィス〕今年度は全ての月で減少しました。大量に水を使用する等のイレギュラーな事項もなく、各自が節水意識を保ち、来年度も現状維持出来る様に努めます。

前年対比 -11.0%

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs 該当項目⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

③-a 可燃ごみ（熱回収）

熱回収	2023年度	2024年度	2025年度
本社ビル	28.2kg	45.1kg	90.1kg
東陽センター	670.9kg	569.0kg	529.6kg
合計	699.1kg	614.0kg	619.7kg
前年比	145.28%	87.83%	100.93%

前年対比 **+0.9%**

③-b プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2023年度	2024年度	2025年度
本社ビル	557.2kg	636.1kg	372.0kg
東陽センター	3297.8kg	3842.7kg	3754.2kg
合計	3855.0kg	4478.8kg	4126.2kg
前年比	102.02%	116.18%	92.13%

前年対比 **-7.9%**

※木場オフィスの廃棄物は東陽センターと合算しています

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用 ● ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分類回収 ● ペーパーレスの促進
- テープの巻き芯を収集
- ペットボトルとキャップの分別収集

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕可燃ごみに関しては、人員の入れ替わりもあり、分別が不完全だった為、オーバーしてしまった。今一度分別の徹底、再利用を促進します。また、売上高と比例して納品量も多かった為、大きくオーバーする要因にもなっていました。取引先へも梱包の簡略化を打診したりと先の削減へと繋げていきます。

不燃ごみは一年を通して大きく削減することができました。再利用できるものは積極的に裏紙やPOP等に使用したことも大きな要因です。引き続き分別の徹底による削減を務めます。

〔東陽センター〕可燃ごみに関しては、昨年より削減に成功し、目標値も達成。ゴミ回収時にも分別がちゃんとされている印象でした。不燃ごみは目標には達成できませんでしたが、昨年より廃棄物は100キロ近く減少。段ボールの自由配布や、緩衝材としても使用し、実践的な行動を行いました。また、マイ弁当持参組も増えたことも要因であり、次年度も継続します。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

SDGs 該当項目⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙
「ホワイトペーパー-R」シリーズ



売上の一部をWWFジャパンの南西諸島
保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

■対象商品（下記いずれか含まれているもの）

- ①売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- ②原料に廃材や再生材を使用している。
- ③非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

ホワイトペーパーがG法適合になり2年目ですが、ホワイトペー・カラーペーパー共に売上数量が昨年度より増加しました。軸になる商品増加に伴い年間目標値達成になります。今後も環境対応品の需要が増えると思われますので、アピールできる商材の拡販に努めます。

	2023年度	2024年度	2025年度
環境対応商品	27,626万円	32,310万円	34,740万円
前年比	117%	116.96%	107.52%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

環境対応商品1721アイテム(2026年5月現在)

前年対比 7.52%

6. 環境経営目標（2026年度～2028年度）

実施事項	2025年度実績	2026年度目標	3カ年での中期目標
①- a 電力使用量	45,596kWh	45,436kWh 前年対比 -0.4%	2027年度 45,231kWh (対2025年度-0.8%) 2028年度 45,049kWh (対2025年度-1.2%)
①- b ガソリン使用量	3,696リットル	3,687リットル 前年対比 -0.2%	2027年度 3,681リットル (対2025年度-0.4%) 2028年度 3,674リットル (対2025年度-0.6%)
①- c CO ₂ 排出量 (※)	27,338kg-CO ₂	27,243kg-CO₂ 前年対比 -0.3%	2027年度 27,170kg-CO₂ (対2025年度-0.6%) 2028年度 27,088kg-CO₂ (対2025年度-0.9%)
② 水使用量	154m ³	153m³ 前年対比 -0.6%	2027年度 152m³ (対2025年度-1.2%) 2028年度 151m³ (対2025年度-1.9%)
③- a 廃棄物(事業系一般廃棄物)の排出量 可燃ごみ (熱回収)	619.7kg	605.7kg 前年対比 -2.3%	2027年度 591 kg (対2025年度-4.6%) 2028年度 577 kg (対2025年度-6.9%)
③- b 廃棄物(リサイクル資源)の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	4126.2kg	4032.0kg 前年対比 -2.3%	2027年度 3,936 kg (対2025年度-4.6%) 2028年度 3,841 kg (対2025年度-6.9%)
④ 環境対応商品売上高	34,740万円	35,191万円 前年対比 +1.3%	2027年度 35,643万円 (対2025年度+2.6%) 2028年度 36,095万円 (対2025年度+3.8%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※CO₂排出量使用排出係数について、購入電力は0.000421（東京電力エナジーパートナー）または0.000571（楽天エナジー）〔単位：t-CO₂/kWh〕、ガソリンは2.32〔単位：kg-CO₂/l〕を使用

7. グリーン購入について

SDGs 該当項目⇒



♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりませんが、以下の通り意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



8. 環境啓発活動 (1)

SDGs 該当項目 ⇒



－WWF「南西諸島の保全活動」支援－

WWFジャパンが進める「南西諸島の保全活動」（南西諸島エコリージョン）は、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島の生態系保全を目的とした取り組みです。以前取り組んでいたWWF「しらほサング村」支援に引き続き、「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。

2025年度実績：400,955円



NANSEIちゃん

特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサング」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



感謝状

株式会社 長門屋商店 殿

寄付額 ￥400,955.-

貴社は当財団の自然保護活動に対して深いご理解を示され当財団の南西諸島プロジェクトを支援するために多額のご寄付をされましたここに貴社の重ねてのご厚志に対し衷心より深甚の謝意を表します

2026年4月24日

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
会長 末吉 竹二郎

－オイスカ「子供の森」計画支援－

公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画は、こどもたち自身が学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていくという森づくり運動です。寄付金の一部は学用品や学校施設への教育支援としても使われます。弊社カラーペーパーシリーズの売上の一部をこの計画に寄付しております。

2025年度実績：408,067円



環境啓発活動（2）

SDGs 該当項目 ⇒



ー巻き芯ECOプロジェクトー



ニチバン株式会社が取り組む「巻き芯ECOプロジェクト」に参加しています。使い終わったテープの巻き芯が集められ、ダンボールへの再生や再生材の換金で国内外の植樹活動に役立てられます。毎年10～20kg相当が回収できるため、環境保護活動の一端を担えると同時に廃棄物の削減に繋がっています。



ー東京ベイ・クリーンアップ大作戦ー



「東京港を泳げる海に！ハダシで歩ける砂浜に！」をスローガンに毎年3回、地球環境の保全と泳げる海をめざして、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）が主催する東京都お台場海浜公園で行う清掃活動に、レジ袋廃止に伴う手提げ紙袋の売上を協賛金の形で支援しています。

2025年度実績：27,195円

9. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策（アイドリングストップ）	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	■ 水銀を含む廃棄物に関しての対応	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	■ 事業系一般廃棄物に関して	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	■ 事業者の責務・減量義務等	○	遵守
江東区環境基本条例	■ 第7条（事業者の責務）ほか	○	遵守
容器包装リサイクル法	■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務	○	遵守
家庭用品品質表示法	■ 障子紙が該当	○	遵守
下水道法	■ 日常使用の範囲	○	遵守
労働安全衛生規則	■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査	○	遵守
道路運送車両法	■ 自賠責・納税・走行ルール	○	遵守
自動車リサイクル法	■ リース会社・販売会社に委託	○	遵守
家電リサイクル法	■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払	○	遵守
小型家電リサイクル法	■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払	○	遵守
資源有効利用促進法	■ 使用済みの事業系パソコンの排出	○	遵守
フロン排出抑制法	■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検	○	遵守

2026年5月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

別紙「EA記録004_環境関連法規取り纏め表」を参照

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。

関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

10. 代表者の総括

■代表者による総括と改善指示

【当該年度の総括】

弊社の事業計画の上で2025年度は創業80周年の節目に向かう3か年計画の初年度となります。新たにコーポレートカルチャーを掲げ、その中には社員一人一人が環境経営への取り組みに携わることを指針の一つとして盛り込むことにいたしました。またこの1年を振り返れば新たな組織の構築に伴い数名の社員を新しいポジションに配置転換したことにより、従業員それぞれの職場環境が変わる中であってEA21への取り組みについても不十分なところが生じたように感じられます。

前年度設置した「エコ委員会」（若手社員を中心に環境経営について検討する組織）ですが、今年度は僅か1回の開催にとどまりました。社内啓発を目的に設置した委員会ですが、社内環境が変わったとしても継続性が求められます。弊社の環境経営の特徴のひとつとして定着させることを目指し、代表者としてもコミットしていく必要性を感じております。

環境経営方針については、普遍的な指針として捉えており、次年度も変更することなく引き続き会社風土として根付かせて参ります。

実施体制については、新たに中堅社員を環境管理責任者に据え、社歴の若い社員を副責任者として抜擢いたしましたが、まだまだ積極性に物足りなさを感じています。もっともっと能動的な姿勢を求めていると考えております。また次年度の体制については大きな変更を行わず、もう1年は腰を据えしっかりとした体制づくりをするよう責任者へ促しました。

今年度の環境経営目標及び環境経営計画についてですが、車両の使用頻度が減り「ガソリン使用量」は減少したものの、「電力使用量」の増加によって「CO2排出量」の削減目標が未達となっております。「電力使用量」の係数が見直された影響も否めませんが、麻布十番の店舗や東陽センター（倉庫）における冬季の暖房器具の使用量の増加が要因のひとつと考えられます。今後は健康管理面とすり合わせながら適切な使用が求められます。一方4期連続で「環境対応商品の売上高」の目標を達成したことは大変喜ばしい結果です。また「水使用量」の目標達成も従業員らの節水意識の高さによるものと考えております。最後に最重要課題としている「廃棄物の排出量」削減については、小売事業部において部分店内改装を行ったことに伴い一時的な増加となってしまいましたが、東陽センターにおいては社員の削減意識も高く一定の成果が数値として現れております。入出荷に関わる梱包資材（段ボール等の再生廃棄物）の増加を抑制することを課題して取り組んできていますが、その努力が実を結び始めています。

【次年度の見直しや改善指示】

環境経営方針は現行を維持いたします。実施体制には大きな変更を加えず継続性を重視して参ります。弊社の環境活動の特徴の一つとして「エコ委員会」を社に根付かせていきます。環境経営目標及び環境経営計画については変更なく継続して参ります。目標未達となった「CO2排出量」の項目については、担当者へ冬季の暖房器具の適切な使用方法について見直すよう指示をいたしました。

2026年5月28日
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<https://www.nagatoya.com>